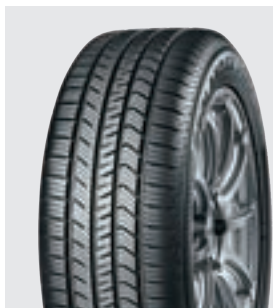


第144期 中間報告書

2019年1月1日から2019年6月30日まで



**GD 2020**



中期経営計画「GD2020」の 成長戦略を着実に推進

過去最高の売上収益を達成するも減益に

2019年度上期の日本経済は個人消費は緩やかに伸長したものの、輸出の減少などを背景に生産活動が低調で景気は横ばいとなりました。海外では、米国では景気回復が持続したものの欧州では一部地域で鈍化傾向が見られるほか、中国では景気の低迷が続きました。こうした中、当中間期の売上収益は前年同期比0.5%増の3,111億円と過去最高となりました。しかしながら、事業利益は同27.5%減の172億円、営業利益は同4.7%減の251億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は同6.2%減の167億円となりました。2019年度通期は売上収益が前年同期比1.5%増の6,600億円、事業利益が同3.0%減の575億円、営業利益が同21.5%増の650億円、親会社の所有者に帰属する当期利益が同29.1%増の460億円を計画しています。配当は中間を1株当たり31円とし、期末も1株当たり31円を予定しています。

中期経営計画「GD2020」に取り組む

当社は2018年度より3カ年の中期経営計画「GD2020（グランドデザイン2020）」に取り組んでいます。横浜ゴムの強みを再定義し、独自路線を強めた各事業の成長戦略を通じて経営基盤を強化し、来たるべき2020年代におけるさらなる飛躍に備える



ことが「GD2020」の位置づけです。財務目標には最終年度の2020年度に売上収益7,000億円、営業利益700億円、営業利益率10%、2020年度末のD/Eレシオ0.6倍、ROE10%を掲げ、目標達成に向けて全社一丸となって取り組んでいます。

ホビータイヤを中心に商品ラインアップを拡充

タイヤ消費財事業の成長戦略のひとつである「プレミアムカー戦略」ではトヨタ「RAV4」やマツダの「MAZDA3」など国内メーカーへの新車装着が進みました。また、米国、ロシアの生産販売会社がスバルおよび日産の現地生産拠点よりサプライヤーアワードを受賞しました。「ウインタータイヤ戦略」では当社初の欧州市場向けオールシーズンタイヤとして昨年9月に発売した「BluEarth-4S AW21」ブルーアース・フォーエス・エータプリュー・ニイチの販売が好調でした。「ホビータイヤ戦略」では国内でSUV・ピック

アップトラック向けタイヤ「GEOLANDAR X-AT」を発売したほか、ストリートタイヤ「ADVAN A08B」のサイズ追加を実施。北米においても「ADVAN A052」 「ADVAN FLEVA V701」などスポーツ系の新商品を相次いで投入しています。2019年度は北米で全9商品を投入する予定で、このうち4商品がホビータイヤとなります。また、当社の歴史的商品である「G.T.SPECIAL CLASSIC Y350」「A539」をヒストリックカー向けに国内で復刻発売しました。「お客様とのコミュニケーション活性化」では会員制ファンクラブ「ADVAN Club」のウェブサイトを開設したほか、国内向け乗用車用タイヤサイトをリニューアルするなどウェブを通じたコミュニケーションの強化を図りました。

OHTの国内販売と北米での新車納入を強化

タイヤ生産財の成長戦略「オフハイウェイタイヤ(OHT)を成長ドライバーとした事業拡大」では2016年に買収したアライアンスタイヤグループ(ATG)、2017年に買収した愛知タイヤ工業の商品を主軸に国内での拡販を図りました。ATGでは本年2月より国内大手建機メーカーへの納入を開始したほか、農機用タイヤの日本向けサイズを開発しました。愛知タイヤについては本年3月より同社製のフォークリフトタイヤを新たにヨコハマタイヤ販売会社のラインアップに追加しています。「北米事業基盤を活かしたトラック・バス用タイヤの拡販」では本年3月に、ヨコハマタイヤ マニュファクチャリング ミシシッピが「IATF16949」認証を取得し、現地日系メーカーのアメリカ国内向けトラックへの納入を開始しています。新商品では本年4月より北米でロングホール深溝ド

ライブ軸用タイヤ「712L」の主要7サイズを発売しました。また、国内でもダンプやバス向けの新商品を発売し、ラインアップの拡充を図りました。

MB事業では成長戦略のひとつである「海洋事業を確固たる世界No.1へ」を推進し、本年6月より世界最大の超大型空気式防舷材の納入を開始しました。

ESG活動を推進

経営基盤の強化ではESGや働き方改革などに取り組んでいます。ESGでは国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向け、2018年に策定した「持続可能な天然ゴムの調達方針」に基づき天然ゴム農園での労働状況調査などを開始したほか、ヨコハマタイヤフィリピンの生産工場に太陽光発電システムを設置し、再生可能エネルギーの活用を進めています。さらに、ガバナンスの強化を図り、社内取締役を減員し、社外取締役の比率を高めました。働き方改革では本年7月、「ダイバーシティ推進タスク」を設置。育児、介護支援、キャリア継続の観点から、全ての従業員が働きやすい環境整備のための施策を展開しています。

当社グループは今後も「GD2020」を着実に推進するとともに、世界中のお客様から必要とされる企業を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年8月

代表取締役社長
山石 昌孝

■ 連結の業績概況

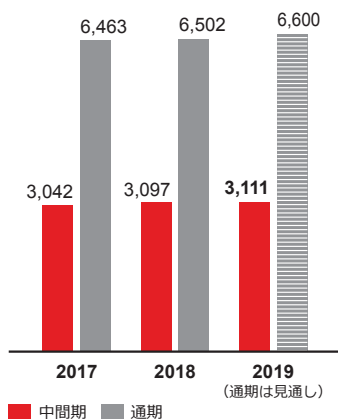
経営成績

当中間期の連結決算は売上収益が前年同期比0.5%増の3,111億円と過去最高となりましたが、事業利益は同27.5%減の172億円、営業利益は同4.7%減の251億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は同6.2%減の167億円となりました。タイヤは、市販

用は前年同期並みだったものの、新車用は納入車種の切り替えや中国の自動車生産調整などで伸び悩みました。MBはホース配管、工業資材、ハマタイト、航空部品がいずれも好調で、オフハイウェイタイヤを生産販売するATGも好調に推移しました。

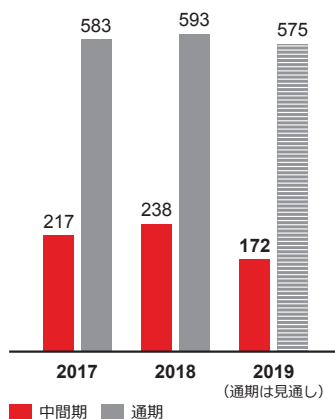
売上収益

(年度/億円)



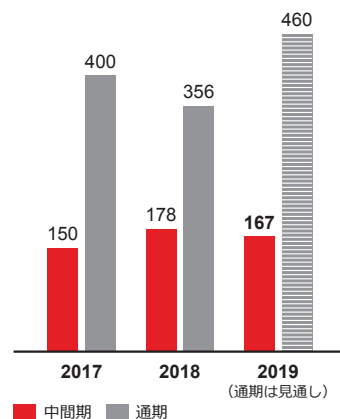
事業利益

(年度/億円)



親会社の所有者に帰属する四半期利益

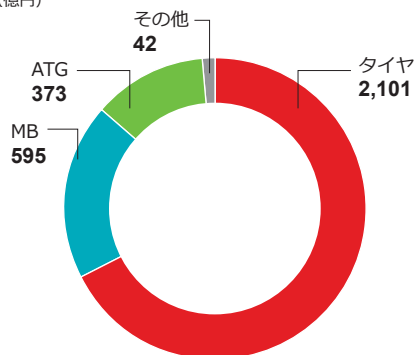
(年度/億円)



※ 事業利益 = 売上収益 - (売上原価 + 販売費及び一般管理費)

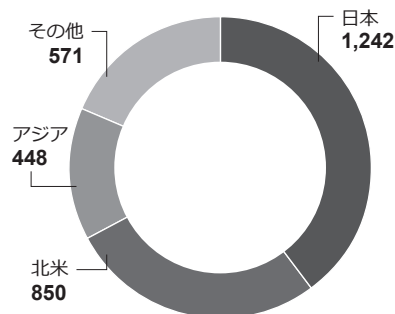
売上収益内訳

(億円)



所在地別売上収益

(億円)



事業別

タイヤ

売上収益 **2,101**億円 事業利益 **75**億円

売上収益は前年同期比1.6%減の2,101億円、事業利益は同52.4%減の75億円となりました。新車用は国内での納入車種の切り替えや中国での景気減速に伴う自動車生産調整を主因に販売が低調で、売上収益は前年同期を下回りました。市販用はグローバル・フラッグシップブランド「ADVAN」シリーズや低燃費

ブルーアース
タイヤブランド「BluEarth」シリーズなど高付加価値商品の拡販に努めました。その結果、国内では年初の暖冬の影響により冬用タイヤが低調だったものの、春以降は夏用タイヤは堅調に推移し、海外でも特に北米の販売が堅調で売上収益は前年同期並みを確保しました。

MB

売上収益 **595**億円 事業利益 **40**億円

売上収益は前年同期比3.8%増の595億円、事業利益は同15.0%増の40億円となりました。ホース配管は国内の建機需要が堅調だったことに加え、海外で自動車向けの新規受注を獲得するなど好調で売上収益は前年同期を上回りました。工業資材は国内外でコ

ンベヤベルトの販売が引き続き好調で前年同期を上回りました。ハマタイトは国内の建築用シーリング材が好調に推移し、航空部品も官需、民需ともに好調で前年同期を上回りました。

ATG

売上収益 **373**億円 事業利益 **52**億円

売上収益は前年同期比7.1%増の373億円、事業利益は同20.3%増の52億円となりました。農業機械用、

産業車両用をはじめとするオフハイウェイタイヤの販売が好調で、売上収益は前年同期を上回りました。

「投資家・株主の皆様へ」サイトのご案内

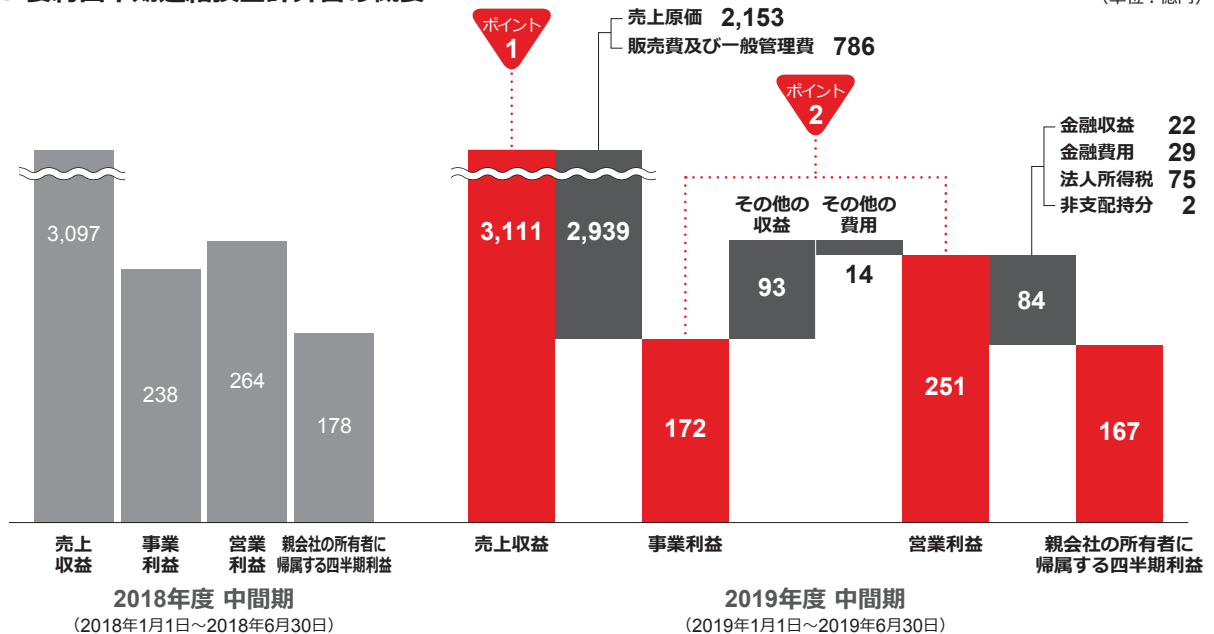
当社の「投資家・株主の皆様へ」サイトでは、最新の会社情報やIR資料などを掲載しています。特に「決算説明会」ページでは、業績・財務情報についてより分かりやすくご紹介するため、決算説明会のプレゼンテーション資料とその詳細な説明を掲載しています。ぜひご利用下さい。

URL: <https://www.y-yokohama.com/ir/>



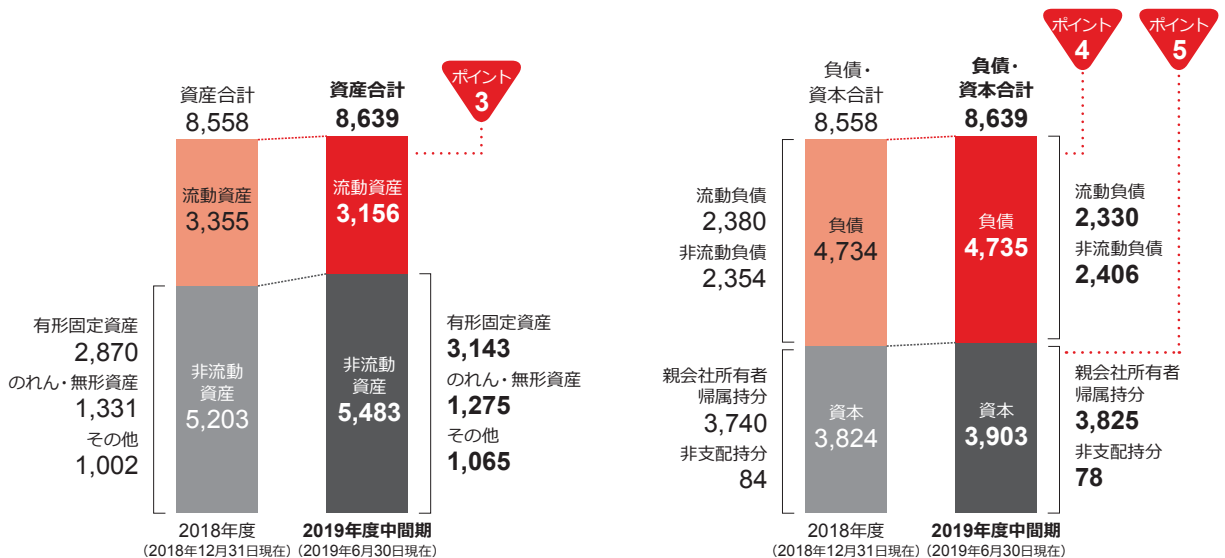
● 要約四半期連結損益計算書の概要

(単位：億円)



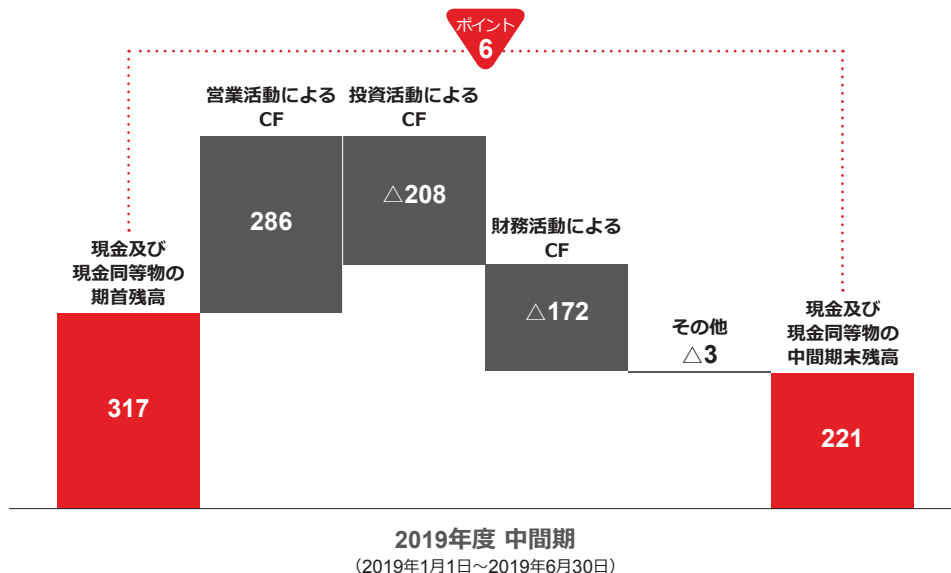
● 要約四半期連結財政状態計算書の概要

(単位：億円)



● 要約四半期連結キャッシュ・フロー(CF)計算書の概要

(単位：億円)



ポイント 1 売上収益

MB事業やATGが好調で前年同期比0.5%増の3,111億円となりました。

ポイント 2 事業利益・営業利益

タイヤ事業における販売数量の減少、生産量減少に伴う製造原価の悪化、物流関連費用の悪化などにより、事業利益は前年同期比27.5%減の172億円、営業利益は同4.7%減の251億円となりました。

ポイント 3 資産

前期末比80億円増の8,639億円となりました。IFRS第16号「リース」適用開始により使用权資産が増加したことなどが主因です。

ポイント 4 負債

前期末比1億円増の4,735億円となりました。IFRS第

16号「リース」適用開始によりリース負債が増加したことなどが主因です。

ポイント 5 資本

前期末比79億円増の3,903億円となりました。親会社の所有者に帰属する四半期利益を計上したことなどが主因です。

ポイント 6 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動による資金の増加は売上債権の回収や税引前四半期利益の計上により前年同期比10億円収入減少の286億円となりました。投資活動による資金の減少は有形固定資産の取得などにより、同35億円支出増加の208億円となりました。財務活動による資金の減少は借入金の返済や配当金の支払いなどにより、同94億円支出減少の172億円となりました。

タイヤ

国内メーカーの新型車に相次いで新車装着

トヨタ「プリウス」とマツダ「MAZDA3」に走行性能、快適性能、環境性能などトータルパフォーマンスに優れたグランドツーリングタイヤ「BluEarth-GT AE51」が新車装着されました。またトヨタ「RAV4」向けに急な降雪にも対応する「M+S（マッド&スノー）」規格の「AVID GT」、三菱「eKワゴン」「eKクロス」向けに「BluEarth-FE AE30」、「デリカD:5」向けに「GEOLANDAR SUV」および「GEOLANDAR G033」を納入するなど国内メーカーへの新車装着を相次いで獲得しました。



トヨタ「プリウス」に装着された「BluEarth-GT AE51」

ダンプ向けラグタイヤ「302C」発売

本年6月、舗装路・非舗装路用ダンプ向けラグタイヤ「302C」を発売しました。従来品「LY317」に比べ、耐カット・チップング性能、ウェット性能、悪路でのトラクション性能を向上したほか、低燃費性能、静粛性、耐久性は同等レベルを確保。またワイドトレッドデザインが力強くなった外観通りの優れた操縦安定性を実現するなど経済性と安全性を高めました。舗装路・非舗装路の両路面に対応可能な仕様とすることで利便性も向上しています。



302C

新次元ハイウェイテレーンタイヤ「GEOLANDAR X-CV」発売

本年4月、ハイパフォーマンス・クロスオーバーSUV向け新次元ハイウェイテレーンタイヤ「GEOLANDAR X-CV」を発売しました。近年増加している中・大型輸入車に代表される高速性能と運動性能を重視したSUV向けタイヤとして開発し、高速性能においては全サイズで最高速度270km/hに対応するスピードレンジ「W」を実現。また同SUVに相応しい安全性、快適性、経済性を備えながら、急な降雪にも対応する「M+S（マッド&スノー）」規格を獲得しています。



GEOLANDAR X-CV

2種類のバス用タイヤを発売

本年7月、コミュニティバス用オールシーズンタイヤ「LT751R」と低床バス専用リブラグタイヤ「507U」を発売しました。「LT751R」は都市部でのストップ&ゴーや山間部のカーブなどに対応し、耐摩耗・耐偏摩耗性能を向上。「507U」は耐久性やリトレッド（更生）性を向上させるとともに、近年バス停で導入の動きが広まっているバリアフリー縁石への対応を実現しました。両商品とも低燃費性能、ウェット性能、静粛性なども十分に確保しています。



LT751R 507U

2種類のヒストリックカー向けタイヤを発売

本年7月、当社の歴史的なブランド「G.T.SPECIAL」の名を冠した「G.T.SPECIAL CLASSIC Y350」および海外向けスポーツカー向けタイヤ「A539」をヒストリックカー向けタイヤとして国内で発売しました。「G.T.SPECIAL CLASSIC Y350」はクラシックな外観に加え、マイルドな乗り心地と安全性を実現。「A539」は走行性能と快適性を両立した非対称パターンにより、コーナリング時の安定性を確保しています。



乗用車用タイヤサイトをリニューアル

本年4月、国内向け乗用車用タイヤサイトをリニューアルしました。「製品ポジショニングマップ」や「あなたにぴったりのタイヤを探す」などの新機能により、ニーズに合う商品を選択しやすくするなど使いやすさを大幅に強化しました。また、タイヤ購入時以外でもお客様とのコミュニケーションを活性化するため、キャンペーンやエンタメ情報ページを新設しました。



乗用車用タイヤサイトのトップページ

「ADVAN club」のウェブサイトを開設

本年7月、昨年40周年を迎えた「ADVAN」^{アドバン}とモータースポーツを中心にカーライフを楽しむためのファンクラブ「ADVAN club」のウェブサイトを開設しました。「ADVAN club」はイベント招待やレース観戦チケットのプレゼントを行う有料の会員制クラブで、コミュニケーションアプリ「LINE」にも公式アカウントを開設しています。ウェブサイトでは有料会員やイベントの申し込み、LINEアカウントの友だち追加などが可能で、サービスの充実や利便性の向上によりファンのさらなる拡大を目指しています。



「ADVAN club」ウェブサイトのトップページ

技術開発

バイオエタノールからブタジエンを生成する新触媒システムを開発

新エネルギー・産業技術総合開発機構による「超先端材料超高速開発基盤技術プロジェクト（超超PJ）」の委託事業として、産業技術総合研究所と先端素材高速開発技術研究組合との共同研究により、バイオエタノールからブタジエンを生成する世界最高の生産性を有する触媒システムを開発しました。人工知能（AI）などのインフォマティクス（情報科学）を積極的に活用し、極めて短期間での開発を実現しています。さらに、生成したブタジエンからブタジエンゴムの合成にも成功。本技術の確立は、タイヤの生産における石油への依存度低減やサステナブルな原料調達に貢献します。

技術開発(モータースポーツ)

豪州最大級のオフロードレースでクラス優勝

SUV向けオールテレーンタイヤジオランダー・エイティ・シーゼロイチゴ「GEOLANDAR A/T G015」を装着した「TRD (Toyota Racing Development)」の「TOYOTA HILUX」が、6月8日から10日に開催されたオーストラリア最大級のオフロードレース「Tatts Finke Desert Race」のEXTREME 4WD (X4WD) クラスで日本チームおよび日本人ドライバー初の優勝を果たしました。「TOYOTA HILUX」はレースを通じて安定的な走り続け、全143台中60台が制限時間内に完走できない中、タイヤ無交換で見



事クラス優勝。「GEOLANDAR A/T G015」は優れた走破性と耐久性で勝利に貢献しました。

X4WDクラスで優勝した「GEOLANDAR」装着車

ニュル24時間耐久で4台をサポート

本年6月、ドイツで開催された「第47回ニュルブルクリンク24時間耐久レース」に参戦した3チーム4台アドバンに「ADVAN」レーシングタイヤを供給しまし



総合9位を獲得した「ADVAN」レーシングタイヤ装着車

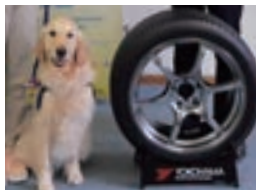
た。このうち、初参戦の「KONDO RACING」が日本から参戦したチームとしては最高位となる総合9位^{*}、SP9クラス8位^{*}を獲得。「ADVAN」レーシングタイヤは158台中56台が脱落する中、安定して優れた性能を発揮し各装着車両の足元を支えました。同じくSP9クラスに参戦した「RACING PROJECT BANDO with NOVEL」も完走を果たしました。

^{*}レース後に総合10位、SP9クラス9位から順位繰り上げ

CSR

まごころ基金を通じて社会貢献活動をサポート

本年6月、従業員による社会貢献基金「YOKOHAMAまごころ基金」は病気の子どもとその家族を支援する「シャイン・オン・キッズ」に活動支援金50万円を寄付しました。同法人は専門的な訓練を受けたファシリティドッグを病院などに派遣しており、当社は同額を寄付したほか、業務車両用に乗用車用タイヤ16本を寄贈しました。また、2月に国際支援に取り組む「チャイルド・ファンド・ジャパン」、6月にフィリピンで環境保全を行う「イカオ・アコ」を継続



支援し、まごころ基金と当社の両者への寄付合計額は約79万2,000円となりました。

ファシリティドッグと寄贈されたタイヤ

再生可能エネルギーシステムの導入を推進

本年7月、フィリピンのタイヤ生産販売子会社であるヨコハマタイヤフィリピンの生産工場の屋根に太陽光発電システムを設置し、運転を開始しました。当社は日本、中国、インドの8拠点でも太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーを活用しており、地球温暖化の防止や天然資源の保全に向けた活動を推進しています。



設置された太陽光発電システム

ゴルフ

2つの人気シリーズから新商品発売

本年4月、「ルールギリギリの飛び」の「RS」シリーズから「RS RED」ドライバーを発売しました。やさしさを追求した深重心のシャローヘッドに加え、藤倉ゴム工業と共同開発した軽量シャフトを採用。「RS」シリーズの特長であるSLEルール適合内ギリギリの高初速性能にやさしさとスピードをプラスしました。また、本年7月にはSLEルール適合外の高反発で飛距離が落ちてきたゴルフファーに飛ばす楽しさを提供する「SUPER egg」シリーズから「NEW SUPER egg 480」ドライバーを発売しました。



「RS RED」ドライバー(左)と「NEW SUPER egg 480」ドライバー

大型シャローフェースとフェースを大きくたわませる新技術により大きな飛びとやさしさを両立しています。

ブランド強化

「チェルシーFC」の日本プレシーズンマッチをサポート

オフィシャルクラブパートナーを務めるイングランド・プレミアリーグ「チェルシーFC」が、本年7月、当社がかねてより強いオファーを続けていた日本でのプレシーズンマッチを催行しました。プレシーズンマッチはイングランド・プレミアリーグのシーズン前に行われる親善試合で、1戦目に1王者の「川崎フロンターレ」、2戦目にスペインの強豪「FCバルセロナ」との対戦が実現しました。当社は日本での開催にあたりサポートおよび、開催日前後にはファンイベントやプレゼントキャンペーンを通じて日本のサッカーファンに「チェルシーFC」の魅力に間近で触れる機会を提供しました。

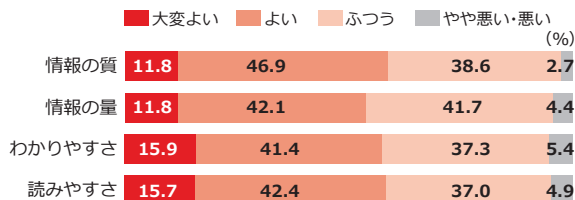


「チェルシーFC」のダヴィド・ルイス選手(右)と山石昌孝代表取締役社長

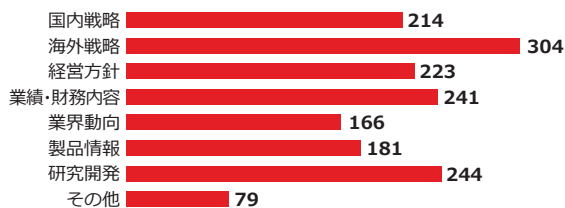
株主アンケート結果報告 • アンケートへのご協力ありがとうございました。

第143期期末報告書でアンケートを実施し727枚(回収率6.5%)のご回答をいただきました。集計結果の一部をご報告します。

Q. 今回の期末報告書をどのように評価されますか？



Q. 今後、どのような情報の充実を望まれますか？ (複数回答可)



お送りいただいた貴重なご意見は今後の中間・期末報告書やIR活動などに活かしてまいります。

新商品やイベント情報をSNSでも発信しています。



役員 (2019年7月1日現在)

取締役及び監査役	
代表取締役社長	山石 昌孝
取締役専務執行役員	三上 修
取締役常務執行役員	野呂 政樹
取締役常務執行役員	松尾 剛太
取締役執行役員	中村 亨
社外取締役	古河 直純
社外取締役	岡田 秀一
社外取締役	竹中 宣雄
社外取締役	河野 宏和
常任監査役	菊地也寸志
常勤監査役	内田 寿夫
社外監査役	亀井 淳
社外監査役	清水 恵
社外監査役	木村 博紀

執行役員(取締役兼務者を除く)

専務執行役員	桂川 秀人
常務執行役員	伏見 隆晴
常務執行役員	挾間 浩久
常務執行役員	岸 温雄
常務執行役員	瀧本 真一
常務執行役員	山本 忠治
常務執行役員	池田 均
執行役員	近藤 成俊
執行役員	城川 隆
執行役員	細田 浩之
執行役員	Jeff Barna
執行役員	Nitin Mantri
執行役員	中山 靖夫
執行役員	清宮 真二
執行役員	宮本 知昭
執行役員	結城 正博
執行役員	塩入 博之
執行役員	矢羽田 雄彦

大株主 (2019年6月30日現在)

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	163,827	10.21
日本ゼオン株式会社	162,765	10.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	109,835	6.84
朝日生命保険相互会社	109,055	6.79
株式会社みずほ銀行	61,300	3.82

※本報告書より、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況 (2019年6月30日現在)

所有者区分	株主数(名)	株式数(百株)	株式数比率(%)
個人・その他	11,504	128,034	7.55
金融機関	92	803,588	47.39
その他国内法人	250	307,462	18.13
外国人	498	286,307	16.88
証券会社	52	79,108	4.66
自己株式	1	90,989	5.36
合計	12,397	1,695,490	100.0

株主メモ

決算期	12月31日
定時株主総会	3月開催
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 及び電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区泉京2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031 (フリーダイヤル)
基準日	12月31日、その他必要により取締役会で決議し、あらかじめ公告します。
配当金受領株主確定日	12月31日及び中間配当を行うときは6月30日
公告方法	電子公告

株式事務手続きのお問い合わせ先

- お取引の証券会社の口座に記録された株式についての住所変更、名義変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受け取り方法の指定など



お取引口座を開設されている証券会社

- 未受領の配当金に関する照会
- 特別口座に記録された株式についての一般口座への振替請求、住所変更、名義変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受け取り方法の指定など



株主名簿管理人・特別口座管理機関
三井住友信託銀行株式会社

横浜ゴム株式会社 〒105-8685 東京都港区新橋5丁目3番11号
TEL (03) 5400-4500 <https://www.y-yokohama.com>
(作成元: 総務部)

環境保全のため、
FSC®認証紙と植物油インキを使用し印刷しています。

